

### III-4 レインボー国際交流

#### (1) 研究仮説

世界が急激に変化していく中、これからの社会を担っていく高校生に、日本に留まらず世界へと視野を広く持ってほしい。そのため、海外の高校生と交流を通して、コミュニケーション能力の重要性を感じるとともに、他言語・他文化についての理解を深め、国際感覚を養うことができるであろう。

#### (2) 実践

ア 実施日時：令和3年度12月13日（月）13:40～15:35

イ 実施場所：1学年各教室、多目的室、パソコン室、会議室

ウ 参加生徒：本校1学年全生徒

Dian Didaktika Islamic High School (SMA DD) 1学年～3学年 120名程度

エ 実施内容

オンライン会議アプリのZoomを用いて、インドネシアの高校生と英語を介したコミュニケーション活動を行う。本校及びインドネシアの生徒が各5人程度のグループに分かれ、自己紹介スライドを見せたり、身近な話題についての質疑応答を行ったりする。

オ 事前指導

①11月以降～レインボー国際交流係（各クラス2名）への事前指導

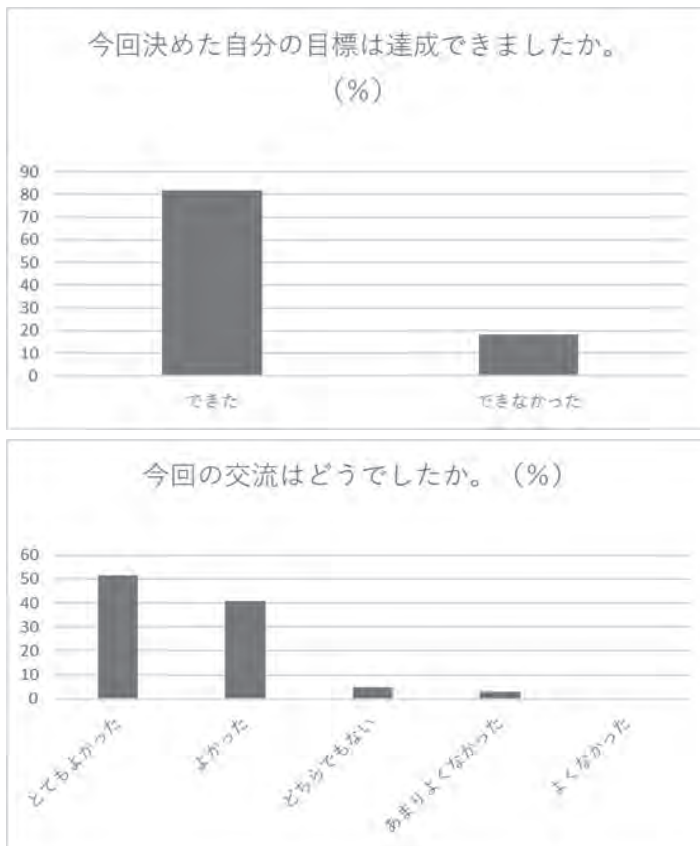
②11月17日（水）インドネシアの高校とZoom接続テスト（生徒全員）

③12月8日（水）全クラスでZoom画面共有リハーサル

カ 当日のスケジュール

Time	Zoom	Activities
<u>Jakarta Time</u> 11:40～11:50  <u>Japan Time</u> 13:40～13:50 (10 min.)	Main	Students enter Main room (5 minutes). Principal of SMA DD declares the program open and makes an opening speech. Principal of Ryu-ichi expresses our sincere thanks to the teachers of SMA DD. Mr. Ardiansyah briefs the program schedule. JET gives the students some advice. They will perform sharing display during their speeches.
<u>Jakarta Time</u> 11:50～12:25  <u>Japan Time</u> 13:50～14:25 (35 min.)	Breakout Room	<u>Self- Introduction</u> 40 students in one class are divided into groups of 5 students and make 8 groups. Each group uses one PC. SMA DD students make the corresponding combination for it. The students introduce themselves mutually. They prepare a google slide or a power point presentation beforehand. <u>Discussion</u> They enjoy communication in English. After the first common question” What do you think of Japan?”, Ryu-ichi students will ask some more questions to SMA DD students from among the question lists. SMA DD students will also ask some questions to Ryu-ichi students in reciprocal ways.
<u>Jakarta</u> 12:25～ <u>Japan</u> 14:25～ (5 min.)	Main	Come back to the main room. Mr. Ardiansyah gives a closing address.

### (3) 評価



#### アンケート結果（一部抜粋）

「相手の話から分かったことは何ですか。」

一生徒：「日本の文化が意外と浸透していたこと。」「日本にすごく興味を持ってきていた。」

「今まで英語を勉強してきた交流に行かせたことは何ですか。」

一生徒：「DMM 英会話や日頃のリスニングなどでネイティブの英語の発音の仕方やししゃべり方に驚くことなく、スムーズに会話できたこと。」

「完了形は、普段の勉強では少し難しいが、かなり便利な表現だと思った。」

「今回のオンライン交流をきっかけにこれからしたいと思うことは何ですか。」

一生徒：「言語だけでなく、他の国の文化なども学ぶこと。」

「もっと流暢な英語を話せるよう教科書の音読をしようと思った。」

「今回どのような目標を設定しましたか。」

一生徒：「緊張しすぎないように、他人に任せすぎないように自分のことだけでなく、インドネシアに関係することも交えながら会話すること。」

「目標が達成できた/できなかった理由を分析し振り返り、その理由を教えてください。」

一生徒：「沢山ではなく少しでもいいから喋ることにチャレンジする目標にしたから達成できた。」

「感想など自由に書いてください。」

一生徒：「今回の交流にすごく感動しました。将来は日本のことを中心に学びつつ、もっと視野を広げて世界的に学びたいなど思うことができました。とっても楽しかったです。貴重な経験をさせていただいて、ありがとうございました。」

「年に4回くらいこういう交流をしたいです。とても楽しく有意義な時間を過ごせました。」

コロナ禍ではあるが生徒全員が参加できる交流を考えていたところ、インドネシア国の私立ディアン・ディダクティカ高校も日本との交流を希望しており、お互いの希望が叶うことから今回のような交流が実現した。アウトブレイクの質問内容は、お互いに事前に伝えておいた。アンケートの結果から80%の生徒が各自設定した目標を達成し、多くの生徒が英語学習へのモチベーションを高めることができたようである。